

国語

(自動車科 一般選考)

□ 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

* SDGsには細かな仕組みは設定されていない。こういうと、「仕組みが大きな特徴だ」といつていることと、ムジュン^①すると思われるかもしれないが、実は細かな仕組みがないことが、SDGsの大きな特徴なのである。

通常、国際的な取り決め、特に国連のもとでの条約や議定書などの取り決めは、ルールや、そのルールの集まりで成り立っている。各国にはそれぞれ法体系があり、ルールがある。それらを持ち寄って、調整を図りながら、新たな国際ルールをつくっていく。これが多国籍間、コウシヨウのエッセンスである。国連で行うような多国籍間の取り決めは、利益や負担の配分というよりも、法制度の調和を図るものが多いといわれるゆえんである。

具体的な国際的課題に焦点を当て、その問題を解決するための仕組みとして、「国際レジーム」といわれるものがある。たとえば、「気候変動レジーム」や、「国際貿易レジーム」などがある。国際レジームとは、ある問題を解決するための国際的ルールのセットだと考えてよい。WTO(世界貿易機関)をジクとした自由貿易体制はその典型例である。自由、無差別、多角的に貿易を進めるといいう「原則」のもとで協定という^②「明文的な「法的枠組み」が定められているが、それですべてではない。これに関する意思決定「手続き」や、フンソウ解決「手続き」があり、制度枠組みができてきている。こうした仕組みは、さまざまなルールが重なりあつてできており、その総体を国際レジームと呼んでいる。国連はこれまで、こうした国際レジームづくりを得意としてきた。たとえば、気候変動問題解決に向けて、毎年年末になると気候変動枠組条約の締約国会議が開かれるが、これは「気候変動レジーム」の意思決定手続きの一つということになる。

ところが、SDGsはこうした法的な取り決めにもとづく仕組みとは全く異なるアプローチをとる。2030年という「少し先の未来」のあるべき姿についての目標だけを設定し、その目標達成のための共通のルールはつくらないアプローチである。「2030アジェンダ」には実施手段も掲載されてはいるものの、詳

細な実施の方策が規定されているわけではない。また、ターゲットのなかには実施手段に関するターゲットもあるが、これらについても抽象度の高い^③「理念的な実施」の方向性が掲載されているだけであり、具体的にどのような資金メカニズムをもつとか、新たな制度を創設するなどというものではない。

A、SDGsでは、従来国際レジームのなかで考えられていたような、国内でSDGs実現に向けた政策を実施する際の^④「拠り所」となるようなルールが、国際的に定められているわけではない。

では、SDGsには何があるのか。目標とターゲットがあるのみである。それらに法的なコウソク力はなく、したがって目標を達成できなくともペナルティはない。

ルールがないということはすなわち、各主体が自由に目標達成へ向けた方策を考え、それぞれに合ったやり方で対応を進めることができるということである。多様性を重視するということは、異なるやり方でのコラボレーションが、さらに新たな方法を生み出していく面白さがあるということでもある。自由度が高いということは、創造性がモノをいう。それはまた一方で、差もつきやすいということでもある。

詳細な実施ルールは定めず、目標のみを掲げて進めるグローバル・ガバナンスのことを筆者は「目標ベースのガバナンス」と呼んでいる。これは、SDGsを策定する際に筆者がリーダーとなつて進めていた国際研究プロジェクトのなかでつくりだしたGovernance through goalsという言葉^⑤を日本語に訳したものである。ルールによるガバナンスはこれまでも行われてきているが、目標によるグローバル・ガバナンスが、これほどまで^⑥「包括的」に行われたことはこれまでにない。あつたとしても、せいぜい発展途上国に主な焦点を当てていたミレニアム開発目標であつたり、ある分野に焦点を絞った目標であつた。産業革命前と比べて地球規模の平均気温上昇を2℃以内に抑えるという、気候変動に関するいわゆる「2℃目標」はその典型的な例である。

70周年をムカえた国連が、歴史上はじめて踏み込ん

だチャレンジが、SDGsによる目標ベースのガバナンスなのである。

意欲的な目標を掲げる効果はいくつかある。まず、目標を掲げることで、その目標を達成しようという意思をもった「資源」が集まる。「資源」とひとことにいつても、その内容は多様である。人的資源をはじめ、目標を実現するための知的資源（アイディア）もある。また、目標へ向かうための「資金」も重要な資源である。

次に、目標を掲げることで、従来は考えられなかったような大きなことを成し「上げる」ことができる。その典型的な例が、「ムーンショット」である。1961年5月、米国のケネディ大統領が10年以内に人類を月に送るという大目標を打ち上げたことではじめて、1969年のアポロ11号の月面着陸が実現した。大目標を掲げることで、想像を超えるような現実がついてくる。

これをシナリオ的に表現するのが「バックキャストイング」という発想である。従来行われてきた多くのシナリオづくりでは、現在の積み重ねとしての未来を描く「フォアキャストイング」の考え方がとられた。フォアキャストイングは、どうしても現状の延長線上に将来を考えてしまい、今と違う社会構造や産業構造への変化や、革新的取り組みを取り込みにくいシナリオアプローチである。これとは対照的に、未来の目標を描き、その実現を前提として、現在の世の中にさかのぼってシナリオを描くのがバックキャストイングである。そこでは目標設定が大前提となる。

（蟹江憲史『SDGs（持続可能な開発目標）による』）

※SDGs：国連で採択された「持続可能な開発目標」のこと。

問一 ー線部 a、j のカタカナの部分は漢字に直し、漢字の部分は読みをひらがなで書きなさい。

問二 A に入る接続詞として最も適切なものを、次のア、イ、エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア たとえば イ なぜなら ウ さらに エ つまり

問三 ー線部 ①、③は、ここではどのような意味を表していますか。あとのア、イから、それぞれ一つ選び、記号で答えなさい。

① 明文的

- ア すぐれた文章で書きあらわされている イ 文章にはつきり書きあらわされている
ウ 難易度の高い言葉が多用されている エ 誰でも分かる平易な言葉が使われている

② 理念的

- ア 実際のなやり方を重点とする考えに沿っている イ 多くの事例に共通する考え方に沿っている
ウ こうあるべきだという根本の考えに沿っている エ 実現することが難しい考え方に沿っている

③ 包括的

- ア 全ての要素を網羅するように イ 必要な要素のみを選択するように
ウ 共通の要素を抽出するように エ 特殊な事例に特に注目するように

問四 —— 線部①「SDGsの大きな特徴」とあるが、SDGsの取組では何が共通していますか。適切なものを全て選び、記号で答えなさい。

- ア 参加国で取り決めるルール
- イ 「少し先の未来」のあるべき姿の目標
- ウ 方向性に基づく詳細な実施の方策
- エ 取り組もうとするターゲット
- オ 目標未達成の場合のペナルティ

問五 —— 線部②「国際レジーム」についての説明として最も適切なものを、次のア、エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 世界のそれぞれの国が独自にもっている法体系やルールを集約したものである。
- イ 自由や無差別などの「原則」を明らかにして締結された国際的な協定のことである。
- ウ 様々なルールが構成要素となっている法的・制度的枠組みなどの総体のことである。
- エ 国際連合が中心となって策定された条約や議定書などの取り決めのことである。

問六 —— 線部③「目標ベースのガバナンス」がもたらす効果としてどのようなことがあると筆者は考えていますか。筆者が考える効果を、文章中の言葉を使って二つ書きなさい。

問七 —— 線部①「バックキャストリング」と線部②「フォアキャストリング」との違いについて簡潔に説明しなさい。

〔二〕 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

優子は踊らない子どもだった。大人になっても踊らなかつた。人生の長い時間を踊らないで過ごした。

「踊ろうよ」

今、香港のナイトクラブの片隅に、スペインコールがびつしり又いっつけられた袖なしのワンピースを着て彼女は立っている。青い羽根つきのピアスと金属製の細い腕輪をつけて、めつたにないほどおめかししている。

「早く、踊ろうよ」

重心を低めた腰をぶるぶる振ったり剥き出しの白い腕をくねらせたりして、友達が優子を誘う。すぐ前で踊っていた現地の男が突然振り向いて、大口を開けて笑う。楽しそうに、ここにいることがおかしくておかしくてたまらないというふうに。けれども笑い声は当然優子の耳には届かなかつたし、友達の声だつて本当は聞こえていなかった。優子は何もかもただスイソクしていただけだつた。

ダンス・ミュージックに終わりはなかつた。

「踊らないの？」

友達はやや困惑顔で、小気味よいステップを踏みながら、それでも優子を誘っている。

「いいの、わたしは」

優子は声を出さず唇だけを動かした。

「いいの、いいの、わたしは……」

①「一番早くに気がついたのは木下という新米先生だつた。

木下先生はハーモニカがとてもうまくて、吹き始めると庭から小鳥が寄ってくる。体が大きくて明るい性格なのに、どうしてか園児たちには人気がなかつた。先生はそれを自分がくさいからだと思ひ込んで、ひっそりと傷ついていた。

そんな木下先生が、年に一度のお遊戯会の演目に「チム・チム・チェリー」を振り付けた。運動神経の鈍い子どもというのは、どの年次にもある程度決まった割合で存在する。木下先生の振り付けには定評があつた。どんなに鈍い子どもでも、ひととおりの練習をこなせば他の子どもと同等にまったく正しく踊っているように見えたから。先生は色彩感覚も豊かだつた。衣装のデザインも照明も、すべて自分でこなした。でも先生

は、本当は、自分一人で踊りたい。照明を落とした誰もいない公民館のホールで、ビデオカメラを回して、自分で作った衣装を着て、特製の白いスポットライトをアビて踊るのだ、それであとで、録画した映像を見て楽しむ。仲良くなつた誰かが家に来たときは、その映像を見せていろいろ説明する。でも先生のアパートにはお客さま用のスリッパがまだない。それに先生は、自分にはわからない自分のくさい匂いを恐れているんだから、部屋になんか、誰も呼べっこない。

雨上がりの爽やかな六月の朝、木下先生は練習を始めた。

青と黄色の格子柄のスモックを着せた園児たちを横二列に並ばせ座らせ、音楽をかけて、まずは一人で踊ってみせる。指をしゃぶる子もあれば顔を赤らめて泣き出しそうな子も、じつとしていられず先生の隣でさぶそく振りを真似し始める子もある。最後まで踊つたあと、カセットデッキにかがんで停止ボタンに指を伸ばしながら、先生はすでに少しだけ満足だつた。子どもたちの反応は悪くなかつた。「先生もう一回やつて」「はいはい」園児を立たせもつときちんと並ばせ、前奏部分の、後ろで手を組んで体全体でリズムをとるところから先生は教え始める。わたしがこの子たちを立派に踊らせてみせる、誰一人として落ちこぼれさせたりはしない、先生の心は燃えている。そして次は？

「六つ数えながら、お箸を持つほうの手からだよ！」振り付けは順調に進んでいく。一教え、二教え、三教えたところで一から繰り返して教える。この調子でいけば、覚えの良い優秀な園児たちはお昼までに曲の半分ほども習得してしまふそうだつた。

「じゃあ最初から、音楽に合わせてやってみようね」小さい子どもと音楽の組み合わせが、先生は大好きだ。テープを巻き戻してボタンを押すと、物憂げなワルツのリズムで前奏が始まつた。ちびどもは手を後ろに組み顔をこわばらせ、全身でうなずくようにリズムをとっている。こんな瞬間のためにこそ先生は先生になつた。木下先生は確かに今、幸せの上位にいる。

チム・チム・ニー、チム・チム・ニー、チム・チム・チェリー、わたしは煙突掃除屋さん……

すべてはうまくいくと思われた。それからたったの数秒後、先生は幸せの上位から転落する。一人だけ踊らない子どもがあるのだ。

笑顔を浮かべて、先生はさりげなくその踊らない子

どものほうへ寄っていく。そしてあたりの園児全員に示すように、進行中の振りの手本になってみせる。子どもはまだ動かない。焦っているようにも恥じ入っているようにも見えない。ただ、正面を見据えて静止している。先生のほうが焦り、恥じ入った。それでもダンスはやめなかった。後半まで一気に踊った。意欲ある何人かの園児だけが最後まで喰らいついて見よう見まねで踊った。先生は踊らされている気がした。

「よくできました」

踊らなかつた子どもは今ようやく動き出し、前髪を触ったりスモックのポケットに手を入れてもぞもぞしている。名前を呼んでご機嫌を伺ってみるべきか、先生は迷った。すると突然、何かを察したようにその子どもは先生を見上げて、満面の笑みを浮かべてみせた。

「木下先生、ゆーや君がのぞみちゃんを泣かせました！」園児の一人が泣き始める。先生は手をエプロンで拭いて泣いている女児の隣にしゃがみこみ、大きな指の腹で優しく涙をぬぐってやる。するとその子は急に顔を上げて教室後方のおかばん入れに走っていき、アップリケ入りのタオルハンカチで顔をごしごしこすった。他の園児はすでに諷いへの興味を失って、指や髪の毛を使って自分をかきかきするの夢中だった。

お遊戯会本番の日まで、木下先生は来る日も来る日も園児たちを踊らせた。ところがどんなに気を配って熱心に教えても、あの子どもだけは踊らない。一つ一つの振りは覚えてくれる。でも手拍子を鳴らしたり音楽をかけると途端に動かなくなる。どうしてなのかわからなかった。(この子はわたしが近づくと絶えず鼻をひくひく動かす) 教えているあいだ、ナイーブな先生はその子のアラザン粒のように小さな鼻の穴ばかり見ていた。(この小さな鼻でさえ、わたしを拒絶する……わたしすれば本当にくさいんだ……だから腹いせにこの子は踊らない……この子だけは正直だ、媚びることを知らない、将来苦勞する子……わたしのよう……老若男女にわたしは好かれな……せめてもう少

し器量良く生まれていたら……もう少し瘦せるか、もしくはとことん大きくなってみるか……きっとそもそものが間違っている、本当ならこんな仕事は今すぐやめて、海の向こうの遠い国に行くべきなんだ……幸せ探しの旅に出るんだ……)

一人だけ隅で見学させるわけにもいかなかったから、木下先生は見せ方を工夫して、踊らない子どもを他の子どもたちのじたばたする手足で隠すことに決めた。カrouじて足踏みだけはできるらしいので、最初から最後までその場で足踏みをさせるのだ。すると巧みな配置のミヨウで、その子どもにはある種の威厳が備わってきたように見えた——オーケストラの古叡の指揮者みたいな、敬われ恐れられるべき威厳が。先生は近づいてそつと言った。「優子ちゃんならきつとできる」先生はもつと言った、「もしできそうだったら、手拍子を打ったり、みんなと一緒に踊ってもいいのよ。ううん、みんなと一緒にでなくたって、あなただけのダンスだっていいの、優子ちゃんが楽しいように、好きなようにやればいいのよ」

これですべての問題は解決した。言うことを聞かない子どもに与えるべきは自尊心と創意工夫の精神だけで、それ以外は何もなかった。先生は他の先生たちより一歩も二歩も前進した気持ちになった。

待ちに待ったお遊戯会の当日、幕間から園児たちのかわいらしいダンスを見つめて木下先生は一人で涙する。そこには調和が、ささやかな詩情がある。先生は感動していた。衣装も照明も何もかも完璧だった。彼女は再び幸せの上位にいた。

優子は一人青ざめた顔で、躍動する子どもたちに囲まれ、単調な足踏みを繰り返している。

(旅に出ることなんかない) 先生の涙は際限なく流れ続ける。

(青山七恵『風』による)

問一 —— 線部 a、j のカタカナの部分は漢字に直し、漢字の部分は読みをひらがなで書きなさい。

問二 ～～線部①、③は、ここではどのような意味を表していますか。後のア、エから、それぞれ一つ選び、記号で答えなさい。

① 小気味よい

ア その場の雰囲気と少しのズレを感じるさま
ウ 包み込まれるような落ち着きを感じるさま

イ 胸がすつとするような快さを感じるさま
エ 恐れを抱かせるものの存在を感じるさま

② 物憂げな

ア なんとなく気がふさぐような
ウ 明るく気分が高揚するような

イ 悲しみに深くとざされるような
エ 少しいらだちを感じさせるような

③ 古参

ア そこにいるものの影響力が全くないこと
ウ その職などからすでに退いていること

イ 力づくでその場を取り仕切っていること
エ ずっと前からその職などに就いていること

問三 ～～線部①「さっそく」、②「悪く」、③「いく」の品詞は何ですか。次のア、エの中から、それぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。

ア 動詞
イ 形容詞
ウ 副詞
エ 助動詞

問四 ——線部①「一番早くに気がついた」とはどういうことですか。簡潔に説明しなさい。

問五 ——線部②「先生は幸せの上位から転落する」のはどうしてだと考えられますか。その理由についての説明として最も適当なものを、次のア、エから一つ選び、記号で答えなさい。

- ア これまでのお遊戯会で見せた踊り以上のものができそうな子どもたちだったのに、思いがけず運動神経の鈍い子どもたちが多く、踊りを覚えられないことを危惧したから。
- イ 自分が指導すれば正しく踊れるように見せられる自信があり、今年もそれがうまくいくと思っていたのに、一人の子のためにそうならないかもしれないことを予感したから。
- ウ 人気がなかった自分の指導を子どもたちが受け入れつつあることを感じていたのに、さつきまで踊っていた子どもたちが、踊ることを拒否しつつあることを直感したから。
- エ 衣装のデザインも照明もすべて自分でこなしたと満足し、子どもたちが完璧に踊りを覚えたことに酔いしれていたのに、他の子と違う踊りをする子どもを発見し落胆したから。

問六 ——線部③「満面の笑みを浮かべてみせた」のはどうしてだと考えられますか。その理由についての説明として最も適当なものを、次のア、エから一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 自分は踊ろうと思えば踊れるのだということを、先生に伝えなければと思ったから。
- イ 踊っていないことに気づかれてしまったので、先生にそのわけを話そうと決めたから。
- ウ 自分が踊っていないことに先生が気づいたと思い、笑うことでごまかそうとしたから。
- エ 隣の子どもを泣かせてしまったことを後悔して、先生にちゃんと謝ろうとしたから。

問七 ——線部④「旅に出ることなんかない」とはどういうことですか。このように思っている時の「先生」の心情について簡潔に説明しなさい。

三 次の①～⑤のことわざの意味として適切なものを、後のア～オからそれぞれ選び、記号で答えなさい。

- ① 愚公山を移す
- ② 盗人にも三分の理
- ③ 笛吹けども踊らず
- ④ 清水の舞台から飛び降りる
- ⑤ 溺れる者は藁わらをもつかむ

ア 手を尽くして働きかけてもそれに誰も応じないこと
イ 困難なことでも努力を続ければ、やがて成就すること
ウ 危急の際は、頼りにならないものにもすがろうとすること
エ どんなことにも理屈はつけられるということ
オ 思い切つて大きな決断をくだすこと

四 次の①～⑤までの空欄に、——線部の言葉がカッコの中の意味になるよう、漢字一字を入れて慣用的な表現を完成しなさい。

- ① 改革に向け、() が熟する時を見極める。
〔ある物事をするのに適した時期になること〕
- ② 彼は齒に() をさせない言い方をする。
〔思っていることを遠慮せずに言うこと〕
- ③ 彼は常に() 橋をたたいて渡るようにしている。
〔用心深く物事を行うこと〕
- ④ 爪に() をともすようにして暮らす。
〔きわめて節約した生活すること〕
- ⑤ 破() の勢いで連勝を重ねた。
〔勢いが激しく止められないこと〕

五 次の①～⑤までの語の類義語(例えば「永遠」に対して「永久」となるように、空欄に適切な漢字を一字入れなさい)。

- ① 関与 ・ () 入
- ② 貢献 ・ () 与
- ③ 失望 ・ 落 ()
- ④ 不意 ・ () 然
- ⑤ 残念 ・ 遺 ()

受験
番号

氏名

解答例

一

問七	問六	問五	問二	
			f	a
ウ	ウ	ウ	エ	矛盾
			問三	じゅうらい
			①	g
			イ	交渉
			②	h
			ウ	軸
			③	おさえる
			ア	d
			問四	迎
			イ	紛争
			エ	e
			エ	けいさい
			遂	げる

○(例) 目標を達成しようという意思をもった「資源」が集まること。
 ○(例) 従来は考えられなかったような大きなことを成し遂げられること。
 (例) 「フオアキャスティング」が現状の延長線上に将来を考えるのに対して、「フオアキャスティング」は未来の目標の実現に向け現在にさかのぼってシナリオを描く。

二

問七	問五	問四	問二	
			f	a
問七	イ	(例) 優子が踊らない子どもであることに、木下先生が一番早く気がついたということ。	①	縫
			イ	い
	問六	ウ	②	g
			ア	推測
			③	あせて
			エ	c
			問三	や
			①	こんわく
			ウ	d
			②	浴びて
			イ	辛うじて
			③	j
			ア	e
			ア	さわやか

仕事をやめる必要などないと思っっている。

三

①	イ
②	エ
③	ア
④	オ
⑤	ウ

四

①	機
②	衣
③	石
④	火
⑤	竹

五

①	介入
②	寄与
③	落胆
④	突然
⑤	遺憾